

平成 28 年 5 月 野口

「桜や桃を食い尽くす“クビアカツヤカミキリ”とは？ 生態、発見場所や対策方法について」
日本では、2012年に愛知県で初めて生息が確認され、近年生息地が拡大している。
幼虫が幹の中を食い荒らし、花見の名所や果樹園の木が枯れたり弱ったりする恐れがある。

クビアカツヤカミキリ

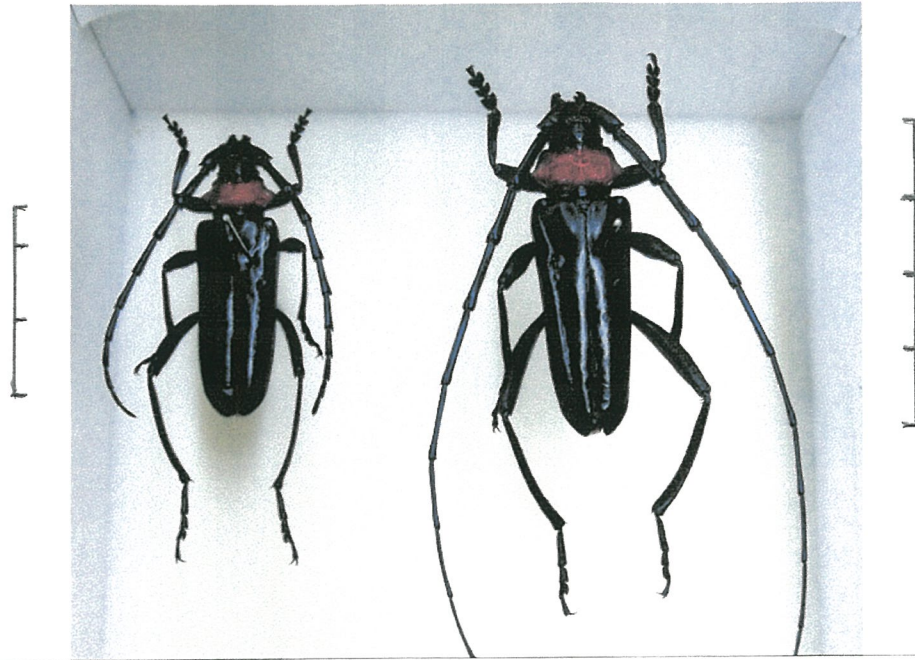
- 分類 : 甲虫目 羽虫上科 カミキリムシ科。 学名 : *Aromia bungni*.
和名 : クビアカツヤカミキリ、一部でクロジャコウカミキリ ともいう。
原産地 : 中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部 など。
虫の卵や幼虫の付いた木材が、物資の梱包用に使われ、海外から日本国内に持ちこまれた可能性が高い。
形・色 : 成虫の体長は、約 2.5~4.0cm。 全体的に光沢のある黒色で胸部が赤い。
別名にジャコウとあるように、捕まえると独特の臭いを放つ。
生態 : 幼虫 は生木の内部に食入し、2~3年かけて成長し蛹になる。この間木屑を外部に排出しながら樹木を弱らせ、枯死させる。
日本では、6月中旬~8月上旬に蛹から羽化して成虫になり、木の外に出てくる。
寄生植物 : サクラ、カキ、ウメ、モモ。ザクロ、ヤナギ など。

発見された年と場所

- 2012年・・・愛知県・・・神社、民家のサクラ、ウメ。
2013年・・・埼玉県・・・草加市葛西用水路沿いのサクラ並木。(⇒草加市 暮らし安全課)
2015年・・・群馬県・・・公園、神社のサクラ
〃・・・東京都・・・公共施設のサクラ
〃・・・大阪府・・・公園のサクラ
〃・・・徳島県・・・民家サクラ、果樹園モモ

防除対策

- ・成虫を見つけたら、すぐにその場で捕殺。
- ・木屑を発見したら、その穴に殺虫剤を入れてから接着剤で埋める。特に多い木は伐採も。
- ・羽化の多い6-8月には樹幹にネットを巻いて飛出しを防ぎ、殺虫剤を撒く。



12年、愛知県で国内で初めて確認された。幼虫が成虫になるまでに2〜3年かかることから、その数年前には侵入していたとみられている。15年には東京や大阪の公園の桜などで相次いで見つかった。6都府県で確認され、今後花見の名所にも脅威が及びかねない。

徳島県では昨年7月、見つけた。県が実際に成虫をつかまえて試験したところ、試した農薬9種のうち1種が比較的に有効だった。

担当者は「早期に防除技術を確立したい」と話す。

環境省と農林水産省は2月、全都道府県に情報提供し、防除態勢を整え、発見した場合には速やかに駆除するよう求めた。今後、拡散経路や分布が広がるリスクが高い場所の洗い出しを急ぐ。環境省外来生物対策室の担当者は「地域の桜を守るため、出来る限りの対応をしていく」と話す。

初夏に駆除を

カミキリムシに詳しい、日本大学生物資源科学部の岩田隆太郎教授（森林・木質昆虫学）は「今後、事態を無策で放置すれば、最悪の場合20〜30年で日本から花見という行為が無くなる」と警鐘を鳴らす。

クビアカツヤカミキリは

亜寒帯から亜熱帯まで様々な気候に適応できる上、他の甲虫に比べて産卵数が多く繁殖力が強い。対応が後手に回ると爆発的に増え、駆除にかかる人手やお金が大幅に増えてしまう。

成虫が出てくる6〜7月に駆除するのが有効だ。ネットを木の根元付近にかけ、カミキリムシが出て来られないようにし、成虫の分布が広がることを防ぐ。伐採した木などからも成虫が出て来ないように、木を放置しないなどの対策も大切だという。

岩田教授は「疑わしいものはすべて切る必要がある」と話す。

（小坪遊、小堀龍之）

桜枯らす 外来カミキリ

〇都府県に拡大

今年も多くの人が楽しんだ花見が、できなくなるかもしれない。最近海外から来た桜を食い荒らす書虫が分布を広げているからだ。専門家は「対策をとらないと、最悪の場合20〜30年で花見ができなくなる」と指摘する。環境省などが対策に乗り出した。



葛西用水に沿って並ぶ桜の幹には、クビアカツヤカミキリの「指名手配」ポスターが張られていた。4月25日、埼玉県草加市、小坪遊園撮影



①クビアカツヤカミキリの成虫 ②幼虫の食い跡

いずれも農林水産省植物防疫所提供

2016年 5月13日 朝日

「花見の危機」指摘も

埼玉県草加市の葛西用水の両岸の桜並木。ソメイヨシノの幹にはカミキリムシの写真付きで「指名手配」のポスターが張られ、「見つけたら踏み潰して下さい」。2013年夏、この場所で見つかった書虫「クビアカツヤカミキリ」だ。翌年、地元団体が張った。

中国や朝鮮半島などが原産地とされ、体長2.5〜4センチ、光沢のある黒い体に赤い胸部が特徴だ。幼虫時代に桜や桃などの生木を食い荒らし、最悪の場合枯れさせてしまう。環境省の生態系被害防止外来種リストにも載っている。

草加市などは13年、市が管理する桜約2600本を調べたところ、100本以上で、幼虫の食い跡を確認。食い荒らされて枯死したとみられる木もあった。市くらし安全課の担当者は「成虫が木から出られないようにネットをかけたり、枯れた木を処分したりした効果もあって、昨年以降は減っているようだ」と話す。

12年に初確認

クビアカツヤカミキリは